

聖朝新報

Rocio Koyama
Redactor
do "Semanario de S. Paulo"
Caixa, 58 - BAURUR
Est. de São Paulo - Brasil

購読料	一月前金	三〇〇
	後金	三〇〇
廣告料	一回	五〇〇
	二回	一〇〇〇
	三回	一五〇〇
	四回	二〇〇〇
	五回	二五〇〇
	六回	三〇〇〇
	七回	三五〇〇
	八回	四〇〇〇
	九回	四五〇〇
	十回	五〇〇〇

社主兼編輯人 香山六郎

崩御

大正十五年歳末廿五日午
前登時廿五分前聖上陛下に
は先來の御備遂ひに癒はさ
せ給はず、御崩殂あそばさ
る。

亞細亞唯一の完全なる獨
立國日本の元首として、や
がては亞細亞總民族の盟主
として、世界萬民の等しく
敬仰しまつりしも、御齡四
十八歳にわたらせられるの
みにして神かくれ給ふ。

人類文化が持つ科學的總
ての海山の藥石も遂に効を
奏しまつらず、

嗚呼
神かくれ給ひしに直面し
まつる大和民族七千萬臣民
の哀愁は世界人類の心にも
憂と響くであらう。

波濤万里距てまつる在伯
六万の日本移民の血に大
西洋を渡り來る祖國の風が
悲し。

新年

亮陰の
せめて新春迄はと皆が念じ奉り
し甲斐もなく、歳末廿五日の眞夜
中、我が 嘉仁天皇遂に神匿れ給
ひ、東宮踐祚ましまし、茲に諒闇
の新年を迎へる。

大正改曆あつて御代は昭和と
なる、昭和最初の新年である。
總てのものを最終へと解決して
呉れるは時の流れである。
總てを創造して呉れるも時の流
れである。

不思議なる時よ、人類と共に
前は終始するであらうか。
生けるものゝみが感じ味はゆる
時の流れ、

お互は今梁陰新年の寂寥さを、
茲常夏の移植地に心ゆくばかり
謹しみ味はふと共に、裕仁天皇の
代しめす昭和の世の昭和ならん事
を念じまつる

Banco Noroeste do E. de S. Paulo

49 - RUA 15 DE NOVEMBRO - 49

日本の第一銀行と取
引して居ります
御送金は圓に換算し
て御郷里の何處に
も御届け致します
兩替は其日のよい値
で致し手数料は他の
銀行より安價に勉強
致します

サンパウロ州
ノロエステ銀行

石油エンジン賣物

中古の四馬力能力の石油エンジンを安價に御譲りしたし
御希望の方は當鐵工場へ御來談又は御照會下さい
ノロエステ線リンス驛郵函二〇三番
下 矢 鐵 工 場

日本旅館

謹んで亮陰の新年を迎ふ
代 田 喜 市
北西線ペンナボリス驛 郵函二六一

謹んで亮陰の
新年を迎ふ
一月 元 旦

丸石鐵工所

北西線ペンナ驛
カフェーランチャ町

聖市旅館同業組合

大坂商船指定符次所

末 廣	コンデ、サルゼーダス街五〇 電話 中山 忠 太郎
あさひ	コンセレイロ、フルタド街一 電話 秋田 久米 三郎
大 和	コンセレイロ、フルタド街二 電話 坊 追 健 造
小 川	コンセレイロ、フルタド一六 電話 小川 源 右衛門
上 地	ポニータ街一一 郵函一二二五 電話 上 地 彌 藏
東京館	マウア街二九一 電話 中村 渠 三郎

電話 シダデ一四七六

電報欄

日伯親善關係の
一會社組織されるか
東京廿三日電、伯國へ日本商工
業の宣傳紹介と、日本移民獎勵
の爲、日本資本有志先駐日
伯國領事と協力、資金五百萬圓又
は百五十萬ドルの日伯親善會社設
立を協議中の由。第一、該資金の
用途は伯國移民希望者の爲め豫備
知識又は補習教育費と伯國事情調
査補助費、第二、渡伯農家事業資金
補助費、其生産物一般販賣所擴張
費及獎勵費用に供す。と是等の移
住者は重に北伯國諸州へ發展さす
意向の由。

新艦製造に
大統領不許可
華府廿五日電、白星宮よりの發
表によれば、北米海軍省の計畫せ
る巡洋艦十隻の新建造に關し、ク
リッチ大統領の意向は、北米が假
想敵國に對し戰備準備の行爲とし
て現在の海軍能力を擴大する新艦
建造計畫には賛し難しと不許可の
旨である。

駐上海伯國領事近況
上海廿六日電、支那上海駐在
伯國領事アウグスト、サルメン
ト、ブランドン氏は腦震盪にて失
神死亡せり、遺骸は消毒保存の盡
伯國郷里へ送還埋葬する由。

英炭採掘好景
ロンドン廿三日電、舊曆四日
十一日の兩日曜週間に英炭の掘
出額は歐洲戰亂後最大多量の記録
を示す四百四十六萬噸であつた。
従業員數は八十八萬六千五百人と

ヒンズ首領害さる
印度デリ廿三日電、ヒンズ首
領のストニ、スハラド、アナン氏
は一マホメット教徒の爲め短銃に
て殺害された、側にあつた氏の友
人も負傷危篤の由。

大阪の大火
大阪廿六日電、大阪市に大火災
あり小寺院幾多を灰にした、損害
二百萬圓と呼ぶ。

崩御公報

外務大臣發電
十二月廿五日東京發至急電 廿五日夜接受
天皇陛下十二月二十五日午前
一時二十五分葉山御用邸ニ於
テ崩御アラセラル。

第一報
十二月廿五日東京發
二十日午後三時三十分掌典長
ヲシテ賢所ニ祭典ヲ行ハシメ皇
靈殿、神殿ニ奉告セシメラレ、
同時ニ葉山御用邸ニ於テ劍靈渡
御ノ儀ヲ行ハセラル。

第二報
十二月廿五日東京發
二十日午後三時三十分掌典長
ヲシテ賢所ニ祭典ヲ行ハシメ皇
靈殿、神殿ニ奉告セシメラレ、
同時ニ葉山御用邸ニ於テ劍靈渡
御ノ儀ヲ行ハセラル。

第三報
十二月廿五日東京發
二十日午後三時三十分掌典長
ヲシテ賢所ニ祭典ヲ行ハシメ皇
靈殿、神殿ニ奉告セシメラレ、
同時ニ葉山御用邸ニ於テ劍靈渡
御ノ儀ヲ行ハセラル。

第四報
十二月廿六日東京發
二十日午後三時三十分掌典長
ヲシテ賢所ニ祭典ヲ行ハシメ皇
靈殿、神殿ニ奉告セシメラレ、
同時ニ葉山御用邸ニ於テ劍靈渡
御ノ儀ヲ行ハセラル。

第五報
十二月廿六日東京發
二十日午後三時三十分掌典長
ヲシテ賢所ニ祭典ヲ行ハシメ皇
靈殿、神殿ニ奉告セシメラレ、
同時ニ葉山御用邸ニ於テ劍靈渡
御ノ儀ヲ行ハセラル。

各國よりの
弔電
伯國大總統領及外務大臣
伯國大總統領ワシントン、ルイズ氏
より日本皇帝及皇室及日本帝國民
に對し深甚な哀悼の弔電を發し、
又外務大臣オッタビオ、マンガベ
イラ氏より日本外相宛同じく哀悼
の弔電を發した。

佛國大總統領
佛國共和大統領よりも懇篤なる弔
電を帝室に發せり。

各國の弔意
伊太利ビクトール、マノエル皇
帝は十五日間のモに服する由發
表ありたり。

羅馬法皇
羅馬法皇は在東京の本山使節
に宮中へ參内弔意を表させり

伯國政府
伯國政府は日本天子の崩御哀悼
の意を表し、首府に於ける活動
寫眞及音樂樂興行を去卅日迄停
止の命令を發した。

英帝國
英帝國は宮中に於て三週間のモ
を發表した。

X光線
今年X光線を以て讀者諸君
にまみゆる。人間の肚の中のい
れも悪い點もドショオ骨のへち曲
つた處もX光線で一目瞭然たらし
めようとの意味である

謹んで亮陰の
新年を迎ふ
ノロエスタ線ベナ驛
カフエーランチャ町
右田辰彦
一 月 元 旦

Officina Mechanica
ANTONIO S. TANAKA
各種自動車修理
日本旅館
北西線ピリグ牛驛
館主 中村忠吉

Confeitaria HIRATA
洋和 御菓子製造所
別日本食料品一切あります
平田伊平

PENSÃO SAUDE
筒井今朝一
大正十五年十二月二十日
北西線リンス市アベニダ、トレゼ
デ、マイオ四十六番地

初めて會つた 人々の印しやう

素骨

正月號に何か書けと頼んで来た。頭に振つて居る。何か書かうと思つて居る間に、原稿締切の日が近づいたからと、又催促状が来た。

私はハッと赤面した、次にウンザリした、それから五月蠅いと感ぜられた。其揚句又責任感に戻つて、「初めて會つた人々の印象」をトウ／＼書いてしまつた。

書いてしまつてから莫迦／＼し、いと感ぜたが、兎に角送る事にした。正月號の陣容が決つて居れば載せぬ方がいゝ。

サンパウロ州に僕が来てから十五年になる、此の田舎ばかりにスプツて居るで、初めて會つた二度も三度も會つた人々もある、嫌やと思ふ程會つて居る人々もある、そうした人々と初めて會つた時の印象を書いて見よう。

▲サントス埠頭に僕が〇〇丸から降りた時、眼尻の下つた一人の青き年と言葉を交した、嫌味のないその笑顔の恵比須面は僕に相手の氣配を感じた。其後此の青年には二度三度會つた。會ふ度に最初の恵比須が僕の頭に一層深い印象を刻みつける。

此青年は森口吉さんである。▲グワツツバラ耕地で野田良治さんと會つた。

瘦せぎすの、小男の、眼鏡の人、三人の伯人フアセンデイロ等に取圍かれて何かかきかかれて居た、野田さんは全く五月蠅いてな表情を隠しながら、それに答へて居た。

後になつて、伯人は何んと云つて居たんで、僕が野田さんにかきかつたら「日本には汽車があるか」と訊ねてました、ほんとに開化せない奴さん等ですね……と伯人對話の折やつた様と同じ五月蠅いてな表情を又繰返して僕にも見せられた。

あの時野田さんの鼻の上に寄つた皺の印象は十幾年後の今も僕の

ヌーボーでなくビカ／＼と働く男坂上でT氏に紹介された時、そのだと思つた。昔の英雄の素質であらうな人を云ふんじやないかと想つた。

▲星名謙一郎さんには、聖市の中央ラゴ、ダ、セの廣場の然も中央で初めて會つた。誰を彼れ時の町あけてカラ／＼と笑つた氏の口が、横から見てまばらに淋しい顔に、心は隙間のない老いの人興味を感じたが、横から見た氏の顔には鬼相があつた。四年前プレジエは鬼相があつた。四年前プレジエは鬼相があつた。四年前プレジエは鬼相があつた。四年前プレジエは鬼相があつた。

▲輪湖後午郎さんの笑ひ方は、右手を開いた口にあて、一度上向いて直ぐ又其手のま、下向く、手が口から外れた時、口端の筋肉は軽く、眼は優しい光に輝く。

▲セルロイドで作つた人形のやうな男、それがサント、エウロシヤの米作當時初めて會つた原口七郎さんに對する僕の印しやうだつた。

▲矢崎節夫さん、先達ノエスタの旅行中初めてお目にかゝつたが僕は詞を交はさなかつた、それは柔和な眼の持主と思つた。

▲古淵富彌氏とはモヂアナ線の奥仁三郎氏の紹介で——放浪時代の古淵氏、僕の胸に刻みつけられたものは彼の端の眼であつた。その目の生命である素直な氣分であつた。確か君はその時チトどもつて居たね。

▲瀧澤仁三郎氏にはリベロンプレト驛で初めて會つた。白いズボンに赤いボライナはめた彼の爽やかな姿、ベローバの杉々とのびた面影にも譬へんか、何等屈托のない晴れ／＼した青年だと思つた。氏が日本に歸る前、サントスのカフェで再び出會つた時、十幾年の苦闘は彼を捨鉢の「まゝよ」てな氣分に浸らせて居た。

▲眼鏡の小野豊藏氏、聖市の何處かの街角で立話して別れたなり十幾年か経つ、僕は今氏の眼鏡だけしか想ひ出せない。

▲禿げの嶺昌さん、君とはセルトンデニオ驛でお目にかゝつたね、それから十幾年、君はその時から禿げて居たね、サントスの潮風に吹かれても、それ以上にはよも禿げない。

▲笹田正數氏とは三角ミナスのコンキスタで知つた。醫者といふ立派な腕を持ちながら、醫者らしい派手な髪をした男であつた、僕はそは全身は臍の凸凹顔の色も淺黒性質の後君とは一度も會はないが、君は相變らず臨床醫師として未梢神

謹んで 謹の

新年を迎ふ

一月元旦

青木商店

北西線リンス驛寺院プラサ前 店主 青木良助

西寫眞館

北西線リンス驛 郵函 一二五

土岐兄弟商店

三共商會取次賣捌所

御旅館

聖市、カンタレイラ街九〇番

電話 シターデ 一七三六 郵函 一四三

星

浅見哲之助

邦雄は、妻の静子の云ふ言葉が...

「貴方は余りに兄さんを信じ過ぎ...

「馬鹿らしい事だ、そんな事は僕...

「何に己れの慾望を満たす為めとは...

「密を以て充分己れが色慾を満足...

「居るよ。僕を驚かせる事はそんな...

「町からの土産は僕を驚かせた罪と...

「邦雄が母親に連れられて、校庭...

集配人の配つてくれる懐しい見か...

女中入用

（夫婦者にも宜し）

カーザ東京

R. Barrio de Iapetitinga, 20

押上げて父は...

大河

汀 打 浪

大會に臨みて

小林美 登利

去る十二月十二日北西線プロミ...

「森の中から森の中へ、何處から...

「大成功を得たものと我等の断言...

には詮議の要はなかつた。自分達...

自働車修繕

誠意を主旨として御用命に應...

CASA OHARA DE IRMAOS ARAÇATUBA

Casa Anse Armazem e Machina de Beneficiari Café

聖州義塾 主任 小林美登利

CASA NISHIMOTO Armazem 買仲穀雜

常盤 薄利多賣と親切

亮陰に面して

公孫樹

明治三十三年五月十日と記憶する。

嘉仁天皇が東宮殿下にましました折九條節子姫と御婚儀あり、京都の御所で御慶事があつた。

其折私は始めて嘉仁天皇の御若い龍顔を拜しまつた。

それは私が調度京都一中の一年生の折であつた。

京都の御慶事へと東京から成らせらるゝ東宮殿下の七條驛御着替を、あの鳥丸通り東本願寺前の廣場に、同級生の一團と整列して御歓迎申し上げた。

その頃は自動車などは未だはやらなかつた時代であつた。

氣を附け……の喧々たる喇叭の響きと共に、私共學生達の若い血は總身を鯨躍立つた様な嚴肅さの姿にした。最敬禮の號令は電氣に打たれた様に響いた。カッ／＼と馬の足音がする、ソット上目遣に見ると先驅警衛隊だ、それから三十間ばかりの後から皇太子旗を翻々と擁した騎兵の一小隊が来た、次が菊の御紋まばゆき御乗馬車であつた。清淨に掃き撤きし白砂の道を音も豊かに通る、私の頭は最敬禮しながら、眼は上目遣に皇太子殿下と妃殿下の尊顔を拜した。

東宮はいとも御澄まし遊ばされつゝ右向き、左向きしつゝ沿道の皆に擧手の禮を賜はつていた。妃殿下は東宮と差向合ひ給ふた、白衣、ウエールをかけ給ひ、御横顔のみを拜した、御口元のしまつた氣高さが私の心にのこる。

私にはそれだけの記憶しか其當時の事にはない。二三日して御還御になつたらうが、御歸還の節無論御送りして拜顔し奉つたらうが丸さきり覺ぬ。

明治四十一年私は渡伯する迄日本には九年、此間東京に三年居た御眞影では天長節に度々領事館で拜するが、ほんとに拜したのはあの時が始めての拜顔であり、又最後の拜顔であつた。

神かくれ給ふた悲報に接しまつり、二十七年前の記憶が甦り、哀

悼し奉る。

移殖民地で二度崩御にあいまつる

其の男

明治天皇崩御の折、私はモヂアナ線グワタラ驛オリビア耕地に居た、其頃私は血氣盛の廿七であつた。其日は耕地のトレイロに働いて居た、煉瓦も敷いてない赤土踏み堅めたあのトレイロに、夕日が赤く牧場の西に白つく頃太ッ／＼でビンガ好き緒面の總監が私の側に近づいて来て一つの紙切れを渡した。

私は電報だなどハット思た。土だらけに汚れた手でそれを開いた、發信人は竹村移民會社の代理人上塚周平氏であつた。横文字綴り日本語打電で讀み苦いと夥いけ何やら讀めた、私の讀取するのを側に立つて見て居た總監は「モイ知っていたのだらう、いさなりインペラドール、モレウ」と獨言の様に云つて私の顔をデロ／＼と見つけた。

見た、私はシンと云つたなり後言句は出なかつた。總監は悠々として私の側を離れて彼方へ去つた。私は電報用紙を握りしめつてトレイロの中央に直立不動の姿で、白い雲飛ぶ天を暫し仰いだ、やがて吾にかゝつて下を向いた時、私の眼から熱い涙がホロ／＼と足下の赤い土の上に散つた。

今はパウールに居る。大正十五年十二月廿五日下午一時半、私はモー寝ようと、室の一時半、私はモー寝ようと、室の

FOLHEIRO Casa Hayashida

謹んで亮陰の新年を迎ふ

家のトヒの御注文に應じます
御通知次第見積に參上致します

ブリキ細工一切
ビードロ、額縁、石油引上げ瓦
瓦葺燈製造も致します

北西線プロモーション驛 郵函九一
林田 伊十

北西線ペンナ驛

吉野旅館

雜穀 珈琲 棉 仲買商 右田辰彦

穀穀仲買

雜貨小間物

山口商店

山口 兩助
北西線ビロギキ町 郵函二一七

謹んで亮陰の新年を迎ふ

一月元旦

富士山印醬油釀造元

北西線ペンナ驛 平野殖民地
藤澤 豊次郎
山本 宇一

謹んで亮陰の新年を迎ふ

一月元旦

本田寫眞館

北西線リンス市お寺廣場横町
出張撮影に應じます

本田 安喜

謹んで亮陰の新年を迎ふ

一月元旦

聖市日本人中央同志會

謹んで亮陰の新年を迎ふ

一月元旦

大河内庄太郎

ノロエヌテ線リンス驛 郵函九一

謹んで亮陰の新年を迎ふ

一月元旦

日本旅館

パウール驛前
沖山 心平

THE YOKOHAMA SPECIE BANK LTD.

RUA DA CANDELARIA, 23
CAIXA, 380
RIO DE JANEIRO

▲郷里送金▲

一、御送金の伯貨は當店にて受取りたる當日の爲替相場にて日本金に換算可致候。日本内地郵便爲替料、書留料其他總て當店に於て負擔いたし即ち全無手数料にて御郷里の受取人へ送り届け申上候。

二、金子はコンパノル、郵便爲替又銀行小切手にて當店へ御送り被下度猶ほ横濱正金銀行勘定として Banco Commercial do Estado de S. Paulo 又は御便宜の方は Banco Noroeste do Estado de S. Paulo へ御拂込被下候。何れにても送金申込書は必ず必ず當店へ御送り被下度候。

三、日本貨定期預金利息六ヶ月以上年六分
伯貨定期預金 一六ヶ月以上年四分五分
伯貨當座預金(小口)………年四分

▲預送金用紙は御請求次第直に御送り可致御不審の點は御遠慮なく御問合せ被下度候。預金通帳は書留郵便にて御送附可申上候間御申込の際に最寄郵便局御指定相成候は御便宜に有之候。

リオ、デ、ジヤネイロ

横濱正金銀行支店

謹んで亮陰の新年を迎ふ

一月元旦

日本旅館

パウール驛前
沖山 心平

削節發賣所
前田吉太郎

K三共商會

ルア、セナドール、ダクタス五三
電話、セントラル、三〇五五三
カイシヤボスタール、三二五八

亮陰の悲しみを申述ぶ

畑野宗太郎 <small>郵函二四四</small>	服部新治	羽高權藏	伊津野又喜	池戸忠次郎	石井重藏	伊藤庄吉	今村權造	茨木信太郎	石川増太郎	石川茂雄	出利葉大三	伊藤敬三	花野雲平	林田鎮雄	富岡清治	岡本專太郎 <small>測量技師</small>	尾崎孫三郎 <small>ペンナ跡セルボン耕地</small>	輪湖俊午郎	渡邊新太郎	鐘ヶ江藤太郎	鎌田信一郎	亀井滿	川原政右衛門	加納一意	加藤憲	上矢孝	龜岡綱吉	吉住勝彦	竹内禮藏	高橋善之助	高橋善七	高橋正吾	高橋三郎	高橋久雄	橋八郎	多賀時藏	田中庄助 <small>パウル市</small>	建本健介	相馬速	鍋嶋喜代重	中熊一男	上塚周平	氏原貞喜	内田鼎	内山庄平	農田源行 <small>郵函一五三</small>	野村秀吉	國成小市	桑野延吉	山下永一	安元青太	山田隆次	八重野松男	山根寛一	安永良耕	山本只一	安田良一 <small>ピソング</small>	松谷正治	松岡健太郎	松本高信	間崎三三一	藤井政人	藤永力三	淵清次	古澤猛	栗津金六	有馬鐵之輔	淺見哲之助	青木仁太郎	笹田正數	坂本留次郎	佐藤一郎	佐藤次郎	齊藤甚七	鮫島直哉	佐藤靜	佐野五作	佐藤勘七	齊藤政一 <small>郵函八二</small>	佐々木光太郎	坂本律造	佐藤嘉次郎	櫻井嘉信	木原 <small>アパニヤンダーベ郵函合</small>	木村孝太郎	北村可納	木村末松	目黒靜	宮崎八郎	宮平市榮 <small>カンボグラデ</small>	篠崎正常	代田喜市	椎野豊	塩見貞太郎	平田滿	鈴木勝次郎	菅野晶酉	鈴木季造	副島惠祐	村崎豊重
-------------------------------	------	------	-------	-------	------	------	------	-------	-------	------	-------	------	------	------	------	------------------------------	------------------------------------	-------	-------	--------	-------	-----	--------	------	-----	-----	------	------	------	-------	------	------	------	------	-----	------	-----------------------------	------	-----	-------	------	------	------	-----	------	------------------------------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	-----------------------------	------	-------	------	-------	------	------	-----	-----	------	-------	-------	-------	------	-------	------	------	------	------	-----	------	------	-----------------------------	--------	------	-------	------	----------------------------------	-------	------	------	-----	------	-------------------------------	------	------	-----	-------	-----	-------	------	------	------	------

謹で諒開の
新年を迎ふ

北西線プロミツソン驛 郵函二五
雜貨商 アサヒ商會
共營 大仲眞良梅良清徳

謹んで亮陰の
新年を迎ふ

中村鐵工所

北西線リンス市 郵函一五四

謹んで亮陰の
新年を迎ふ

ノロエステ線
リンス日本人
青年俱樂部

謹で諒開の
新年を迎ふ

大阪商船株式會社
サントス在勤員 莊司良雄

謹んで亮陰の
新年をむかふ

八ツ田精綿工場 及農場内

イガラバト町
八田一藤
西村市助
原田健藏
村井稔弘
福川爲然

謹んで亮陰の
新年を迎ふ

東洋旅館

平田商店主
平田千嘉藏
ノロエステ線プロミツソン驛

IMPORTAÇÃO E EXPORTAÇÃO Cia. GODO BUSSAN DO BRASIL S. A.

謹んで諒開の
新年を迎ふ

一月元旦

合同物産 株式會社

ブラジル

Rua General Camara No. 213
CAIXA POSTAL, 1004
TELEPHONE NORTE 1868
RIO DE JANEIRO

自動車貸
Automovel
直に御通知次第
直に驛參上致します。
ボテキン
伊藤元登
ノロエステ線
プロミツソン驛郵函一〇三

上田商店

ノロエステ線
アルマゼン
農産物
ブ、アルベス驛真前

當研究所特製品
口腔衛生には……芳香衛生ハミガキ粉 二ミル五百
消化不良による諸病には……ポリヂアスターゼ 十五ミル
トラホーム、流行目には……タカ眼藥 五ミル
痛みある腫物には……タカ膏藥 三ミル五百
胃腸病には……タカ胃散 十ミル
子供の強壯剤には……ポリビタミナ
尙藥品、殺虫、殺菌劑及び醫療機械
類の御求めに應じます

大河内藥化學研究所

聖市アッセンブレア街三一
電話 セントラル 四八一九番
取次所 各地邦人商店に御尋ね下さい

阿兄へ

二十年前の記憶

人間は元來平等だ、貧富の差の出たのは一が他の物を奪つたのだ、元の平等にさへすれば何等争闘は起らない、だから資産家は自己の財産全部を社会へ提供して共に平安を計らねばならぬ。

それは私等の家が零落して、市の中心地帯より次第／＼に町端れへと押し出され、城の東に居住してゐた時分、突然東京より歸宅した兄に或日連れられて散歩に出たその道々の兄の話である。何の話の続きであつたかは忘れたが、家の通りを左へおれて玉造神社前を通りかゝる時であつたと記憶する。當時十三歳であつた私は、子供心に云ひ得ぬ事を云ひ現はして行く様な感じがして共鳴し成程と感心して聞いたものであつた。それなら所有財産を全体に分配させればよいじゃないかと云ふ様な事を私は云つた様に覚えて居る。兄はそれに答へて、だが資産家がその所有財産を蓄へる迄にはそれ相當の努力をして居る。資産はそれに対する報酬なのだから唯強制的に分配させると云ふとは出来ぬ。私はそれを聞いて又成程と感心したのであつた。(想へば可笑しい事を考へて居つたものである)

暮れて行く空を眺めながらふと歸國した兄の身を案じつゝ、不思議にも廿年前の自分等二人の談話と歩んでゐた土とを想ひ出し、望郷と幼時を惜む念は堪らなく私を淋しくするのであつた。
兄が歸國の途次、聖市より書面にて私は今懸命だから金銭の事を問題にならぬが、種々と噂のある今日何事も明白にして置く方お身の爲かと存じ候(中略)S様にも種々打明話を致し何かと御配慮を添ふし、御親切の程身にしみて嬉しく感激在罷候。お身も今後共最善を盡し法華經に仕へらるゝ事を忘れられぬ様祈り申候。と認めてあつた。

私は兄の情を思ふ涙が潤れたと通に考へて居る忘年の意味は、過去一年の處世と之に伴つた運命を忘れる意にして、今日まであつた淋しみの生命であり、悲しみの生命である。
太平洋上波高からん甲板に起る今宵の阿兄、何を憶ひ何を想ふて空を眺めて居る事か、廿年前に踏んだ土を如何なる感じを以て吾兄は踏むであらうか。

改曆鈍想

改曆鈍想
ベナ 古澤 猛
來年は來年はで暮して行く。私は私の過去一年の過路を省ると今日まで何を以て来たか、サツパリ判らない。
食ふために、二人分も三人分の食つては居ない。
働かぬために、人を感心させる程の勤勉家でもない。
遊ぶ爲めに、遊人だと云はれる様にも遊んで居ない。どれを見つめても何んにも見合相にない、片影だに認めん。
斯うして生きて行くのが人生かと思ふと情ない程貧弱だ。世の中の人々が同一經路を辿つて居られるとすれば、所謂人生の使命なるは奈邊に在るか解義する事は至難であるやうだ。私が際會した忘年、年始は指を數へるに過ぎず、それ等の改曆に當つて何等かの意味の感慨を以て送つた事も僅か、今後何回改曆に際會するのかわからず、その感慨もどんなに變化して行くかわからない。私が普まつる。

然し私は過去の年月がどんな悲哀に満ちてゐても、どんな艱難が溢れてゐても忘れ得られないのである。
經過した時間は存在であつて、使用されたタイムは人生である。私達の存在は悲哀艱難に満ちたる爲めに否滅せられるものならず、未來の大成は經過する秒、分、時の間に形作られてあるなれば生きて行く限り有用に送るとが肝要であると思ふ。悪戯の過去一年を忘れず、永久に明記して一生の思出となすは人生に適しい行事である眞の壯者の意氣は逆境に遭遇して旺盛となり、活動力も増加するのである。
霜雪に堪ふる根ざしの固からば花咲く春のなどか來ざらむ
苦闘にて恵まれたる安樂は意味の濃き事幾何なるか。苦闘一年の月日は、人の生涯の歴史の一頁にして、自身を飾る唯一の履歴ならん終りに臨み諒閣の新年を悲しみ變化して行くかわからない。私が普まつる。

謹んで亮陰の新年を迎ふ

一月元旦
追テ舊職開催ノ定時總會ニ於テ役員改選ノ結果左ノ諸氏當選就任致シ候間此致謹告候也
會長 丸林久秀 吉
副會長 荒木次郎 市郎
會計係 黒岩利久 彌平
評議員 松倉好次 實
全全全全全
今橋本亦太郎
ソロカバナ線バングラス驛
太陽植民地日本人會

Dr. J. de Cunto Junior
Praça Ruy Barbosa—Tel. 222
Baurú
聖市サンタ、カーザ外科醫、婦人外科醫
泰頭ドトリル、アイレス、ネット氏助手
首席リオ、サンタカーザ婦人科金庫理事兼主任
自由血 沙病院兼主治醫
パウロ、サンタ、カーザ外科婦人臨床科主任
ドトリル、ジ、デ、クント、ジュニオール
外科手術、婦人神經衰弱症、泌尿器症
右専門のみの診察を受諾す
診察時間 午後一時より 五時迄

Hotel Nippon
ベナ
Caixa Postal, 71
ホテル ニッポン
ベナ驛カフエランデヤ町汽車道通り
副島商店ホテル部

謹んで亮陰の新年を迎ふ
一月元旦
雜穀 仲買商 岡島仁郎
ソロカバナ線、セルゲイラセーザ驛
郵函拾四番

謹んで亮陰の新年を迎ふ
一月元旦
日本旅館主 川尾利市
北西線ベナ驛カフエランデヤ町

謹んで亮陰の新年を迎ふ
一月元旦
齒科醫 向井丈松
ノロエステ線プロミツソン驛
郵函 四八

謹んで亮陰の新年を迎ふ
一月元旦
ノロエステ線リンス市
上村旅館 郵函一七八
矢野熊太

謹んで諒閣の新年を迎ふ
雜穀仲買 雜貨商
北西線リンス市郵函一二九
Rua Olavo Bilac, 32 LINS
原商店

謹んで諒聞の
新年を迎ふ

澤尾旅館

パウエル驛前
澤尾磯七

謹んで諒聞の
新年を迎ふ

一月元旦

伊藤 樋口
共同素麵製造所

相變らずの
御引立を願ひます

北西線リンス市

R. ABE
EST. PROMISSAO

筋違、骨接、
整骨、骨接、
何時にても診察
治療致します

阿部亮治

ノロエステ線
プロミツソン驛
コロゴ、アズール區

▲廣告▼
灸治師
治療病名
リウマチス、神経痛、子
宮病、其他筋より出た病
御希望に依り何時にても出張
治療に應じます

坂本亀太郎

ノロエステ線、ベネナ驛カフエー
ランヂヤ町 郵筒一〇一

謹んで亮陰の
新年を迎ふ

ドウラデンセ線イタボリス驛街
郵筒 一三二番
寫眞師 横山亀一

Escritorio Commercial
Caixa, 44 Est. GUAYCARA
L. NOROESTE

一般商事
事務取扱

貸金取立、清算、
抵當物整理、商業
通信、貸借對照表
簿記一切

相馬ボルジェ
ス合同事務所

時計修繕
RELOJOEIRO

おなじみの澤尾ホテルに投宿し
て、諸君の時計修繕の御要求に應
じて居ります。

修繕専門に致し居りますので、仕
事は確實、迅速、丁寧に致し、代
價も至極お安く致します。

御要命下さい。

エンリケ、ペトリエ

アレグレ植民地

總面積三千アルケレス

來て、見て、買った 此語は當殖民地に適切な、アレグレ味
を持った實証の言葉であります。地権に對してはシーザが保証致
します、豊かな地質、交通便利、氣候良好、それは其名の示す如
く、入殖者のアレグレで盡きて居ります。諸君の御視察には、
植民地用の自動車が必要され居ります。

入植契約の方最早や數十家族あります

中央市街地が豫定されて居ります

マツバの御入用の方には、お申越次第送ります

ノロエステ線、ピリグキ驛アレグレ植民地

詳細は左記へ御照して下さい

Hidekichi Nomura
野村秀吉
Caixa Postal 8 Est. Promissao L. Noroeste

雜貨小間物
雜穀仲買

吉田兄弟商店

ノロエステ線ピリグキ町
郵筒 二七二番

CASA TOKIO

材木 家具
商カーザ東京

聖市、ルア、パロン、デ、
イタベチニガニ〇
杉本芳之助

謹んで亮陰の新年を迎ふ

一月元旦

プロミツソン聯合青年會
會員一同

謹んで亮陰の新年を迎ふ

一月元旦

プロミツソン日本人會
會員一同

謹んで諒聞の
新年を迎ふ

下矢鐵工場

リンス市

Marcenaria Japoneza

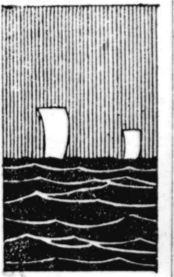
謹んで亮陰の
新年を迎ふ

一月元旦

家具製造
並に販賣

古賀政次

パウル市八月一日街
(シネマ真前)



安藤氏の世界的發明

人の目に見えない遠距離に
送信省で特許認可

人間の目に見えない遠距離にある風物或は其活動状態を電波と電氣の力で、目に見ることが出来る素晴らしい世界的發明を無電發明家安藤博士が發明し、十月十九日附を以て逓信省から特許の認可があつた。

今氏は四台の機械を専念製作中であるが二三ヶ月後は完成の豫定で、世界的最初の機械でもあり一台一萬圓以上二萬圓位はかかる筈で完成の時は東京大阪間に据ゑつけるが、この驚くべき發明によつてニユトラチオの放送に一大革命を起すことになる。

従つて英米獨佛其他各國に向けて一年以内に其有先權を獲得する筈で、同機械は電波の届くかぎり何千里の遠距離でも自由に見ることが出来る。

この發明機が安價に製作されるればラヂオ放送の唱つたり踊つたりする模様が手に取る様に聞きながら見るやうになるし、世界ニユトラチオも一瞬間に聞かれることになる。

安藤氏は語る「製作中の四台が完成次第東京大阪間で試験する積りです、これは距離の問題を超越し唯残されてゐるのはその程度迄明瞭に活動中の事物がスクリーンに現はれるかと云ふことで、其装置は動く事物をスクリーンに撮つて無電にかつて送信機に加へると例へば二百里以上にある同じ装置の受信機がスクリーンに現はれる譯です」

箕浦老、偽證罪で
若槻首相を告訴
松島事件の雲行は一般に注目の的となつて居る折柄、本事件の被告箕浦勝人氏より若槻首相を相手取り偽證罪の告訴が十一月八日大阪地方裁判所へ提出された、一國の總理大臣が偽證罪で告訴を受けたのは前代未聞の事である、告發したる偽證の論點は

祖國便り

麥收穫高

農林省調査
本年度全國に於ける麥收穫高は次の如くである。

大麥	八、五六七、三七九石
裸麥	七、四三六、三五四石
小麥	五、八九二、五七七石
計	二一、八九六、三一〇石

恩給の一番多い

山本伯と清浦子
一時間當七十四錢餘

一體日本で誰が一番恩給に恩給を頂戴してゐるか調べてみると、實は山本權兵衛伯と清浦奎吾子との二人で何れも恩給年額六千五百圓を受けて居るから一ヶ月五百三十四圓卅一錢一日當り十七圓八十一錢になつて居る。

酒井日慎師當選

日蓮宗の後任管長選舉は開票の結果豫想通り眞間弘法寺住職酒井日慎師が二千餘票の絕對多數を以て當選した。

富士の大雪

十月二十七日夜來富士山には大雪あり、翌日午後三時頃までに五合目下數尺の積雪ありしと、十月中に斯る大雪を見たとは未だ且てない由。

竹ヤリで押かく

小作人百餘名が
小作爭議の頻發と悪化を以て知られる大阪府三島郡三宅村の地主一同は、十四年度の小作料不拂の爲め本年度の取種米を假差押へ斷行したが、愈よこの立毛を競賣するとなつたを知つた小作人は協議の結果竹槍を振つて競賣場に押かけ警戒中の警官隊と衝突した。

謹んで諒
新年を迎ふ

一月一日

グワランタン日本人會

謹んで亮陰の
新年を迎ふ

一月元旦

齒科醫 山中信一

ノロエステ線リンス市

謹んで亮陰の新年を迎ふ

渡嘉敷唯正

北西線プロミツソン驛 郵函二七

謹んで亮陰の新年を迎ふ

一月一日

雜穀商 本田 授

北西線グアイサラ驛

謹んで諒
新年を迎ふ

一月一日

雜穀仲買 雜貨商 柳兄弟商店

プロミツソン驛 郵函一八

謹んで諒
新年を迎ふ

一月一日

雜穀仲買 雜貨店 須山商店

北西線ベンナ驛カフエランチャ町

指定乗船會社 取次所

潮 ほてる

館主 前田吉太郎

HOTEL USHIHO
サントス市
電話 一三二八



崩御の御様模

業同志會九、無所屬一。天皇陛下には二十八日文武百官有爵者帶動者を宮中に召され朝見の儀を行せられ勅語を賜はりたり

皇山離宮の聖上御病床の間に皇后陛下及皇太子殿下皇子御揃ひにて御看護遊ばされた。聖上御臨終の折は御枕邊に皇后陛下御自ら帝の御唇を浄水もて御濡らし給へば、攝政殿下は帝の御脈をとり給ひつゝ、體温器もて熱の御模様を計らせ給ふ裡に、嚴肅な時は迫りて心臓麻痺によらせ給ふ帝の御臨終は近づき、御安眠遊ばさる如く靜かに神さり給へり。

御大葬御費用

去る廿六日内閣は御大葬御費用豫算として二百九十八萬圓を支出する事に決議し、議會の承認を経る筈である。

御陵墓地

大行天皇の御陵墓地は、昨年来宮内省御用地になつた東京府下北西の八王寺附近阿佐川の地に撰定になる模様である。市外二十五哩の處にあり。

御大葬日

御大葬は今春二月末か三月上旬になるらしい。

海防警備

葉山御用邸にて崩御ましませしを以て横須賀鎮守府よりは葉山沖一帶の海岸警備の爲め軍艦を急遣した。

御遺骸入宮

廿七日葉山より御遺骸は東京宮城へ御着あり、内閣員一同、各國外交使節團及其他國民諸團体百萬入御供申した。

軍隊一萬五千を以て御警護申し沿道の兩側は人民の人垣を以て滿され、肅々と御遺骸は御入城になつた。

バウル領事館接受

(十二月二十九日)

二十六日帝國議會開會、二十八日大葬費豫算貳百九拾八萬圓上程即日兩院通過、二十九日より一月十五日迄休會、尙衆議院の分野は憲政會一六五、政友會一六〇、政友本黨九一、新正俱樂部二六、實

情報

業同志會九、無所屬一。天皇陛下には二十八日文武百官有爵者帶動者を宮中に召され朝見の儀を行せられ勅語を賜はりたり

宮内省へ弔電

崩御の公電がバウル領事館へ着するや多羅間領事は管轄區内在留民を代表して宮内省宛弔電を發せられた。

改曆

十二月二十五日眞夜中嘉仁天皇御かくれ遊ばすと共に大正の年號はお廢しになつた。裕仁皇太子殿下が帝位に踐祚遊ばすと同時に改曆した年號が御發表になつて「昭和」となつた。

領事館への弔電

各驛の在留民よりバウル領事館宛哀悼を表する電報が頻りに着いた。ノロエスタ線よりはアラサツイバ驛、ビリグキ驛、ペンナ驛其他より、特にペンナ驛よりは八通の多きに上つた由。

喪服の事

在留婦人は黒の喪服を成る可く被るがい、黒服の無い人は左の胸に蝶形結の黒布を喪の章としてつけることである。

低利資金貸出の爲め

既報の如く、ソロカバナ線殖民地方へ昨年末二十七日から低利資金を貸出すことになつた。

それでバウル領事館の古關書記生が、正金銀行の代理も務め勞々去る二十六日朝ソロ線ブ、ブルデラ驛向け當地を出發した。

吊旗懸へる領事館

二十六日早朝バウル帝國領事館舎玄關には日の丸の旗が旗幟半分より下に掲揚された。室内には大行天皇の御眞影が肅然と掲げられて居た。

號外發行

去る二十六日聖上崩御の公電バウル領事館に着するや本社は直に悲報を號外に發行して聖市方面を除くインテリオル各驛在留民諸君に撤布した。

横濱正金爲替相場

邦貨一圓につき伯貨四ミル百二十レリス (十二月二十一日) 諒閣中に付年賀を欠く 渡邊 傳右衛門

亮陰中に付年賀を欠く

田中 龍介

小兒科、一般臨床醫

Dr. Hildebrando T. de Carvalho MEDICO
X光線、紫外線、皮膚病療法、應用治療
診所
バウル市、アントニオ、アルベス、街十二、十三、電話二〇七
ドットトル、ビルデ
ランド、テ、デ、
カルバリオ

PHOTOGRAPHIA
肖像繪及寫眞師
名越寫眞館
お求めに應じます
バウル市
政夫

Alfaiataria Yabe
SÃO PAULO
最新歐米型迅速丁寧
御用命ニ應ジマス
矢部洋服店
聖市、ラルゴ、ダ、セー九
二階の第一號

謹んで亮陰の
新年を迎ふ
一月元旦

瀬木商店

本店 サンパウロ市
支店 バウル市

日本品直輸入
内外食料品
洋酒卸小賣
農産物賣買

謹んで
亮陰の新年を迎ふ

寫眞師 渡邊善男
北西線ペンナ驛カフエーランヂヤ町

亮陰中に付き
年末年始の禮を欠く

聖市アツセンブレア街三一番
大河内辰夫

新んで亮陰の新年を迎ふ

聖州新報社
社員一同

諒閣中に付年頭の禮を差控申候

ミツタニ商店
水谷熊次
第一モンソン植民地

謹んで亮陰の
新年を迎ふ

鍼灸術 川床榮司
北西線ビリグキ驛 鹿兒島縣人

謹んで
亮陰の新年を迎ふ

大福旅館

ノロエスタ線リンス市

N. Y. K. LINE.
F. S. Hampshire & Co. Ltd.
S. Paulo: Rua Alvares Pentead, 17 Sobrado
Santos: Rua 15 de Novembro, 147 Sobrado

日本郵船會社 出帆廣告
日本行には一番早い航路
(南米日本間約五十日)

若狭丸 一月卅一日
河内丸 三月四日サントス港發

日本郵船會社は略毎月一回神戶向サントスを出帆致します。他船に較べて日本へ約十日間も早く着きます。日本へ歸られる船客は南河の一部を除いて途中御上陸が隨意に出来ます。衛生設備の整頓、食事の優良、乗組員の懇切等に就き定評があります。詳細は何卒上記代理店へ。

謹んで諒閣の
新年を迎ふ

安田鐵工所

安田宗五郎

アララクアラ線イバラ驛郵函四番



女忠臣藏

碧瑠璃園

(六十四)

良人のお家再興には奥野將監云つたが、河村傳兵衛、小山源五右衛門など比較的高祿を取つて居た者に多いせぬ。江戸派と一致の行動を取つて、まづしぐらに亡君の遺志を繼がうとするのは、原惣右衛門を頭目とする一派である。それには武林唯七や神崎與五郎や、身分の卑い血氣た、今にも息がつまる様々聲であるの若士が附屬して居る、良人はどうしたか。

「眼病でお在でぢやわの」
「何、何日か……」
「わしもようは知らぬ、去年の暮れの中頃頃から、そこいとか申すこと播州へお歸りなされたの承つた、其後はどうぞるかの」
「さらば都には居りませぬね、日々の御參會にも出席は致しませぬな」
「詳しくはお丹さま御存じぢや明日は聞いて進ぜうの」
「お大の目には涙が光つた、聞く良人が勝つか、原殿の主意が徹ると同時に、お大の背を向けて、びたりと兩掌を合せ乍ら様へ申上げる事もある。

「尾崎八幡様、淺野様氏神様、良人の眼病を平癒なさせ給へ、平左衛門の身上を御守護あらせたまへ、わしの一命はどうなつても管ひませぬ、お助けなされませ、お苦勞を凌いで、お陸から頼まれた事を充分に仕達げたま、平左衛門の勘氣が許されたい爲めである、元の夫婦になりたい一心である。然もお陸はそれを察してくれぬ、平左衛門の事は忘れやうに他の事ばかりを語る、お大は堪りかねて

「日ごとくのお寄合、定めて皆御參會でござりませうな」
「されば播州大阪奈良あたりからお越し遊ばすお方はないが、都伏見、大津などにお住ひの方々は大体御參會とござるはの」
「平左衛門も御難作に預かるでござりませうな」
「お、其の事を忘れて居た平左衛門殿の事を話すと忘れて居た」
「お陸は我身の不束を悔むやうに

「お心の御推量申すは、お丹さまよく御存じ、あなたのお覺悟それで定り申さうはの」
お大は明日夜の明けを待つてお丹を尋ねるとに定め、その夜は安く眠りに就いた、十数日に亘る旅の疲れを、お陸が親切に敷いて呉れる梅の中に休めた。

翌日は十五日であつた、風も長閑に、未明から鶯が鳴いて居た、お大は豫定の通りお陸の口上を齎らせて、早く山科を出やうとして居た處へどや／＼と大勢の人が入つて來た。

内藏助が瑞光院から歸つたのである、松之丞も一緒であつた、お大が挨拶する間もなく次々に顔見知りの人々がやつて來た、吉田忠左衛門も居れば原惣右衛門も居る、小野寺十内も居れば大高源吾も居る、河村傳兵衛、進藤源四郎、奥野將監、灰方藤兵衛、最も弱年の矢藤右衛門七に至るまで總勢二十餘人あつた。

書院から客間をぶつ通して、夫等多くの人々が着座する、座から溢れて玄關に座を占めた者もあるお大は何事かと驚いた、されど松之丞の報知によつて「瑞光院で充分の決議を見る事が能きなかつた爲め、今日は當家に於て最後の寄合をなされる」と知れた。

尤も參會の要件は知れぬ、評議決する迄は堅く人拂ひたる旨を告げた、前栽から玄關へ向けて、嚴重に見張番をつける、大廣間と奥の間とは壁一重を隔てるばかりであるから、御評議が始まると共にお陸始め家内の者は隣の尼寺へ行くやうにとの沙汰があつた。

お陸は馴れて居るから何とも思はなかつた、けれどお大は御評議の模様聞いて見たいやうにも思つた、江戸で見聞した事が何かの御参考になる様なら、お席の端を覗いても可いと思つた。

謹んで亮陰の
新年を迎ふ
一月 元旦
聖市日本人青年會

謹んで諒開の
新年を迎ふ
一月 元旦
家具製造
並ニ販賣
別府友太郎
ノロエステ線リンス驛 郵函 九十九

謹んで梁陰の新年を迎ふ
上村旅館
北西線リンス驛 郵函 一七八

謹んで亮陰の
新年を迎ふ
金子ホテル
リンス驛

謹んで亮陰の
新年を迎ふ
一月 元旦
貸自動車業
横山初太郎
ノロエステ線リンス驛

謹んで亮陰の
新年を迎ふ
聖市
中矢商店
大喪中に付年頭の御挨拶差控申上候